

○年金たる補償の額等の端数処理の実施について

	〔 昭和56年2月19日地基企第6号 各支部事務長あて 企画課長 〕
第1次改正	昭和56年12月25日地基企第59号
第2次改正	昭和57年9月30日地基企第33号
第3次改正	昭和60年10月1日地基企第30号
第4次改正	昭和61年3月31日地基企第11号
第5次改正	昭和62年2月1日地基企第3号
第6次改正	平成2年10月1日地基企第21号
第7次改正	平成6年7月22日地基企第40号
第8次改正	平成8年7月29日地基企第55号
第9次改正	平成22年3月19日地基企第15号

地方公務員災害補償法（以下「法」という。）第39条の2、附則第8条、地方公務員災害補償基金業務規程（以下「規程」という。）第29条の15及び「年金たる補償等の支払いに関する端数計算の取扱いについて（平成8年7月22日地基企第52号。以下「理事長通知」という。）」の実施については、別紙を参考にして処理して下さい。（第1次改正・一部、第3次改正・一部、第5次改正・一部、第8次改正・一部）

別紙（第2次改正・一部、第3次改正・一部、第4次改正・一部、第5次改正・一部、第6次改正・一部、第8次改正・全部、第9次改正・一部）

第1 年金たる補償の額の端数処理

1 通常の場合

＜例＞ 遺族補償年金

- | | | |
|--------|--------|------------------------------|
| ・遺族の数 | 4人 | 〔 受給権者 3人……245日分
受給資格者 1人 |
| ・平均給与額 | 9,317円 | |

○年金たる補償の額

$$\text{(平均給与額)} \quad \text{(乗すべき数)} \quad \left(\frac{1}{\text{受給権者の数}} \right)$$

$$9,317 \quad \times \quad 245 \quad \times \quad \frac{1}{3} = 760,888.33 \Rightarrow \underline{760,900\text{円}}$$

〔法第39条の2による端数処理〕
〔100円未満の端数処理〕

○4月、6月、8月、10月及び12月の各支払期月に受給権者1人に対して支払われる額

$$\text{(年金額)} \quad \left(\frac{\text{支給月数}}{12} \right)$$

$$760,900 \quad \times \quad \frac{2}{12} = 126,816 \frac{2}{3} \Rightarrow \underline{126,816\text{円}}$$

〔理事長通知による端数処理〕
〔円未満切捨て〕

○2月期に受給権者1人に対して支払われる額

$$\text{(年金額)} \quad \left(\frac{\text{支給月数}}{12} \right) \quad \left(\begin{array}{l} \text{4月、6月、8月、10月及び} \\ \text{12月期に切り捨てられた額} \end{array} \right)$$

$$760,900 \quad \times \quad \frac{2}{12} \quad + \quad \frac{2}{3} \quad \times \quad 5$$

$$= 126,816 \frac{2}{3} \quad + \quad \frac{10}{3} \quad = \underline{126,820\text{円}}$$

2 年金額が改定された場合

<例1> 上記1の例で、平成9年4月に受給資格者1人が失格し、遺族の数が3人(223日分)になった場合

○平成9年4月期に受給権者1人に対して支払われる額

$$\text{(年金額)} \quad \left(\frac{\text{支給月数}}{12} \right)$$

$$760,900 \quad \times \quad \frac{2}{12} = 126,816 \frac{2}{3} \Rightarrow \underline{126,816\text{円}}$$

(理事長通知による端数処理)

○平成9年6月期に受給権者1人に対して支払われる額

・4月分

$$\text{(年金額)} \left[\frac{\text{支給月数}}{12} \right]$$

$$760,900 \times \frac{1}{12} = \underline{63,408 \frac{1}{3}}$$

(端数処理は行わない)

・5月分

$$\text{(平均給与額)} \quad \text{(乗すべき数)} \left[\frac{1}{\text{受給権者の数}} \right] \quad \text{(年金額)}$$

$$9,317 \times 223 \times \frac{1}{3} = 692,563.66 \Rightarrow 692,600\text{円}$$

(法第39条の2による端数処理)

$$\text{(年金額)} \left[\frac{\text{支給月数}}{12} \right]$$

$$692,600 \times \frac{1}{12} = \underline{57,716 \frac{2}{3}}$$

(端数処理は行わない)

・6月期の支払額

(4月分) (5月分)

$$63,408 \frac{1}{3} + 57,716 \frac{2}{3} = \underline{121,125\text{円}}$$

○平成9年8月、10月、12月の各支払期月に受給権者1人に対して支払われる額

$$\text{(年金額)} \left[\frac{\text{支給月数}}{12} \right]$$

$$692,600 \times \frac{2}{12} = 115,433 \frac{1}{3} \Rightarrow \underline{115,433\text{円}}$$

(理事長通知による端数処理)

○平成10年2月期に受給権者1人に対して支払われる額

$$(年金額) \left[\frac{\text{支給月数}}{12} \right] \left[\begin{array}{l} 4月、6月、8月、10月及び \\ 12月期に切り捨てられた額 \end{array} \right]$$

$$692,600 \times \frac{2}{12} + \frac{2}{3} + 0 + \frac{1}{3} \times 3$$

$$= 115,433 \frac{1}{3} + \frac{5}{3} = \underline{115,435円}$$

<例2> 障害補償年金に係る平均給与額が給与改定に伴い平成9年4月1日に遡って改定され、平成10年1月に追給分を支給する場合及びその場合の平成10年2月期に支払われる額

- ・平成9年4月6日 治ゆ
- ・障害等級 第2級……277日分
- ・平均給与額 11,348円→11,575円
- ・給与改定前の年金額

(平均給与額)	(乗ずべき数)	(年金額)
11,348	× 277	= 3,143,396 ⇒ 3,143,400円
		(法第39条の2による端数処理)

- ・給与改定後の年金額

(平均給与額)	(乗ずべき数)	(年金額)
11,575	× 277	= 3,206,275 ⇒ 3,206,300円
		(法第39条の2による端数処理)

○平成9年6月期に本来支払うべき額

$$(年金額) \left[\frac{\text{支給月数}}{12} \right]$$

$$3,206,300 \times \frac{1}{12} = 267,191 \frac{2}{3} \Rightarrow \underline{267,191円}$$

(理事長通知による端数処理)

○平成9年8月期、10月期及び12月期に本来支払うべき額

$$\begin{aligned} & \text{(年金額)} \left(\frac{\text{支給月数}}{12} \right) \\ 3,206,300 & \times \frac{2}{12} = 534,383 \frac{1}{3} \Rightarrow \underline{534,383\text{円}} \end{aligned}$$

(理事長通知による端数処理)

○平成9年6月期に既に支払った額

$$\begin{aligned} & \text{(年金額)} \left(\frac{\text{支給月数}}{12} \right) \\ 3,143,400 & \times \frac{1}{12} = \underline{261,950\text{円}} \end{aligned}$$

○平成9年8月期、10月期及び12月期に既に支払った額

$$\begin{aligned} & \text{(年金額)} \left(\frac{\text{支給月数}}{12} \right) \\ 3,143,400 & \times \frac{2}{12} = \underline{523,900\text{円}} \end{aligned}$$

○平成10年1月に追給することとなる額

(本来支払うべき額)

<6月期分><8月期分><10月期分><12月期分>

(267,191 + 534,383 + 534,383 + 534,383)

(既に支払った分)

<6月期分> <8月期分> <10月期分> <12月期分>

－ (261,950 + 523,900 + 523,900 + 523,900)

= 36,690円

○平成10年2月期に支払われる額

$$\begin{aligned} & \text{(年金額)} \left[\frac{\text{支給月数}}{12} \right] \left[\begin{array}{l} \text{6月、8月、10月及び} \\ \text{12月期に切り捨てられた額} \end{array} \right] \\ & 3,206,300 \times \frac{2}{12} + \frac{2}{3} + \frac{1}{3} \times 3 \\ & = 584,383 \frac{1}{3} + \frac{5}{3} = \underline{534,385\text{円}} \end{aligned}$$

3 年金たる補償を受ける権利が消滅した場合

<例> 平成9年12月に失権した遺族補償年金を平成10年1月に支払う場合

- ・遺族の数 1人…153日分
- ・平均給与額 14,328円
- ・年金額

(平均給与額) (乗ずべき数)

$$14,328 \times 153 = 2,192,184 \Rightarrow \underline{2,192,200\text{円}}$$

(法第39条の2による端数処理)

○平成9年4月期、6月期、8月期、10月期及び12月期に支払われた額

$$\begin{aligned} & \text{(年金額)} \left[\frac{\text{支給月数}}{12} \right] \\ & 2,192,200 \times \frac{2}{12} = 365,366 \frac{2}{3} \Rightarrow \underline{365,366\text{円}} \end{aligned}$$

(理事長通知による端数処理)

○失権に伴い平成10年1月に支払われる額

$$\begin{aligned} & \text{(年金額)} \left[\frac{\text{支給月数}}{12} \right] \left[\begin{array}{l} \text{4月、6月、8月、10月及び} \\ \text{12月期に切り捨てられた額} \end{array} \right] \\ & 2,192,200 \times \frac{1}{12} + \frac{2}{3} \times 5 \\ & = 182,683 \frac{1}{3} + \frac{10}{3} = 182,686 \frac{2}{3} \Rightarrow \underline{182,686\text{円}} \end{aligned}$$

(理事長通知による端数処理)

4 特殊公務災害（法第46条）又は国際緊急援助活動特例災害（地方公務員災害補償法施行令（以下「施行令」という。）第10条）の場合

<例> 傷病補償年金 ・ 傷病等級 第1級……313日分

・ 平均給与額 8,321円

・ 施行令第2条の3第3項又は第10条の率 $\frac{40}{100}$

○年金たる補償の額

（平均給与額）（乗すべき数）（1＋割増率）

$$8,321 \times 313 \times \left[1 + \frac{40}{100} \right] = 3,646,262.2 \Rightarrow \underline{3,646,300\text{円}}$$

（法第39条の2による端数処理）

5 他の法令による給付との調整を行う場合（法附則第8条）

<例> 遺族補償年金

・ 遺族の数 3人 $\left\{ \begin{array}{l} \text{受給権者} \quad 1\text{人} \cdots \cdots 223\text{日分} \\ \text{受給資格者} \quad 2\text{人} \end{array} \right.$

・ 平均給与額 7,452円

・ 他の法令による給付 厚生年金保険法による遺族厚生年金
及び国民年金法による遺族基礎年金

・ 施行令附則第3条第1項の率 0.80

○年金たる補償の額

（平均給与額）（乗すべき数）

$$7,452 \times 223 = 1,661,796\text{円}$$

（調整率）

$$1,661,796 \times 0.80 = 1,329,436.8 \Rightarrow \underline{1,329,400\text{円}}$$

$\left[\begin{array}{l} \text{法附則第8条による端数処理} \\ \text{[100円未満の端数処理]} \end{array} \right]$

